

ベトナム語をマスターしたいあなたへ

ベトナム語学習の成功法則

A.C.C.日本語学校

はじめに: 自己紹介

ー私が外国語教師になったワケー

この度は本レポートをお申し込みくださり、ありがとうございました。

学校責任者の石川です。

あなたはベトナム語ができるようになりたくて、このレポートを読んでくださっているんですね。

その気持ち、よくわかります。

私はあなたの目標実現のお手伝いができるかと確信しています。だって私もそうだったから。そしてあなたが自己実現してくれることが、私の最大の喜びだから。

だから、私はベトナム人に日本語を教え、日本人にベトナム語(ときに英語も)を教える外国語教師になりました。

私のささやかな経験ですが、少しでも皆さんのお役に立てばと思い、自己紹介も兼ね、以下に私の経験と試行錯誤から得た外国語学習法を紹介します。

外国語を話せる人は、ものすごくカッコいいと思いませんか。「俺もカッコいい人になりたい！」それ思っって私は外国語を、それはもうせっせと勉強しました。

英語は5年前ですが TOEIC で 800 点をとりました。ベトナム語は音痴な私には発音

が難しすぎて、聞くのや話すのはちょっと苦手ですが、新聞は楽に読めます。

こう書くとなにやら語学の天才のように聞こえてしまいますが、実際はそうではありません。

大学生のとき、第 2 外国語で勉強させられたフランス語。ぜんぜんわかりませんでした。フランス語の文字を見るだけ、フランス語を聞いただけでイライラしてしまい、授業を何回も休んで、最後は教授のお情けで単位をもらった次第。

2 年で終わるはずの単位を 4 年までひきずり、結局 4 年間勉強したのに、一言も話せませんでした。

どうして？

今ならわかります。

外国語の勉強の仕方を知らなかったから。どうすればできるようになるのか、知らなかったから。

私はあなたにに言いたい。間違った方法で勉強して、時間とお金をむだにしてはいけない。正しい方法で勉強して、はやく外国(ベトナム)語が話せるカッコいい人になってほしい。

どうすればカッコいい人になれるか。私にはわかる。だから。

私は、ベトナム人に日本語を教え、日本人に英語やベトナム語を教える外国語教師になりました。

初心者の外国語学習理論

ーベトナム語をマスターするためにー

英語学習に関して、「受験のために単語の暗記や文法・日本語訳ばかりやってるから、日本人は英語が話せない！」。こんな批判をよく聞きます。

実際私も初めての海外行きするとき、スチュワーデスさんに“How are you?”と言われてとっさに返事できなかったという、悲しい思い出があります。大学の英文科で4年間勉強したのにですよ。

ですが、外国語の勉強で「単語の暗記や文法の勉強や日本語訳」が、本当に間違いなのか？というと、それはちがいます。

会話学校で「さあ恥ずかしがらずに話しましょう」とやったところで、初心者には実のところ蚊がさしたほどにも効きません。

よく「アメリカ人の子供が英語を習得するのと同じ順序で英語を学ぶ」という文句、聞きますよね。つまり、たくさんの英語を浴びることで自然に話せるようになる、と。

説得力ありますよね。実は私も昔、英語教材を買ってしまったことがあります。家出のド〇ッ〇ーとか。でも話せるようにはならなかった…。

要するに、シャワーのごとく言葉を浴びつづけることで話せるようになる、というのはあくまで子供の話なんです。大人の脳は、子供の脳とは全くベツモノになってしまっていることを忘れてはいけません。

意味のわからない言葉をいくら浴びても、大人の脳にとってそれはただの雑音。聞いているだけで話せるようになるなんて、世の中そんなおいしい話はありません。

言語学で説明されていることですが……。

子供の脳は来るもの拒まず、どんな情報でも無条件でインプットします。ところがある程度の年齢になると、「母語」を守るために脳は方針を変更。「他の言語」は「母語」を脅かす「侵入者」とみなし、脳が拒むようになるのです。

以前の私、あの「フランス語の文字を見ているだけでイライラしてきてしまう」が、まさにこれです。あなたも中学ではじめて英語をならった時、経験しましたよね。

してない？そういう語学センス抜群の方は、この先は読まなくてもけっこうです(笑)。

しかし大人の脳でも外国語を拒否反応が少ない入り口があります。それが「理論」という入り口。

大人の脳は、理論で物事を処理します。たとえ侵入者である外国語であっても、文法という「理論」であれば、大人の脳に受け入れられやすいのです。

言語トレーニング第一段階は、まず理論でテキストを理解してしまうこと。

子供と違い、大人は理解できない言葉は覚えられません。まずは文法や日本語訳という、先人達が考え出してくれた便利な道具を使って、理解してしまうのです。手段を選ぶ必要はありません。

私の方法は、まずテキストの日本語訳を読んでしまう。それからテキストを読み理解する。

辞書を引き引き…なんて時間の無駄。まずじっくり考えてそれから答えを確認する、なんて悠長なことも私にはできません。

もちろん自力で読解しなければ気がすまない方なら、それも構いません。

ようするに**最終的に理解できさえすれば、方法はどうでもいい**んです。そしてとにかく、この段階はできるだけ早く通り過ぎましょう。

そしてここからが本番。

言語トレーニング第二段階は、血肉化すること。

例えばスポーツ。技術書を読んで理解しただけでは、決してプレーできません。頭で理解したら、体が無条件で反応するようになるまで徹底的に体に覚えこませる。どんなスポーツのいかなる一流選手も、いや、一流選手ほど単調な基本練習を欠かしていないことは、あなたもご存知でしょう。

畳が磨り減り穴があくまで素振りをしたという、野球の長島監督。

イチローも松井も、チームの誰よりも基本練習に時間を割いているそうです。

サッカーのブラジル代表だって、ドゥンガが言ったように、「はたから見たら馬鹿げているほど単調なフォーメーションの練習を繰り返して、動きのパターンを覚えていく」んです。

そして、日本人の外国語学習で欠けている点が、まさにここ、血肉化する段階がないことなのです。

初心者が外国語を血肉化するための方法は、**徹底的な音読とリスニングと音読筆写**。口と耳と手で、脳が拒絶反応を起こさなくなるまで徹底的に体に覚えこませます。目安はリスニング 100 回、音読 50 回、音読筆写 10 回。音読筆写とは、口でぶつぶつ言いながら、写経のごとく書いていくことです。

この 3 つを立体的に組み合わせた学習こそが、初級者の学習法なのです。

初心者の学習戦術

それでは「迷える子羊」が「ほのかな明かりが見える」ようになるまでの、絶対の外国語学習方法を紹介します。私はコレを忠実に実行し、ベトナム語をマスターしました。効果は実証済みの学習法です。

第1段階:待つ

「その外国語を習得したい」という気持ちが「絶対にやる」という衝動にかわるまでひたすら待ちます。

その間、ただ待っているだけではいけません。まずは教材をいくつも買い込み、パラパラと眺めてください。

おっとっと、まだはしがきやコラム以外の中身を読んで、学習を始めてはいけませんよ。とにかくまず、教材をいくつも買ってしまおうんです。人間とはケチなものだから、お金を使うことでとことんやる気になれるわけです。

そして**作戦を練る**。これから説明するアドバイスに従い、どの本のどこから手をつけるか、どの程度の期間で仕上げるか、計画を立ててください。

さらに本やネットで語学学習に成功した人の体験談を読んだり、実際に外国語を使っている「カッコいい人」に会ったり、はたまたその言葉を母国語とする友人(異性が望ましい)とお近づきになったりして、モチベーションを極限まで高める。「カッコいい人」

を目のあたりにすること、異性のお近づきを作ることは、モチベーションを高めるのに特に効果があります。

さ～あ、やる気になってきましたか。

では、次はいよいよ具体的な第二段階の話をしてします。

第二段階：一気呵成のスタートダッシュ

新たな語学を習得するためには、圧倒的なスタートダッシュが絶対的に必要です。これに失敗すると再起は難しいので、こころしてかかってください。

まず、第 1 段階でためたモチベーションが切れる前に、一気に超基礎語彙を覚えてしまします。この基本語彙を覚えるのに、辞書を使ってはいけません。時間の無駄です。日本語訳がある教材を使ってください。

そしてとにかく、一気呵成に覚えてください。

注意すべき点は、短期間でケリをつけること。この段階での持久戦は禁物、期間は短ければ短いほどいい。語学学習の初歩の初歩の段階では、継続は力ではなく失敗の元なのです。最長で 2 ヶ月と考えてください。

なぜかという、このスタートダッシュは飛行機の離陸のようなものだからです。飛行機のパイロットが最も緊張するのが、墜落の危険性の高い離陸直後の「魔の 7 分間」。

そしてこのわずか 7 分の中に、飛行機は燃料のかなりの割合を消費してしまうそうです。

だがしかし、これを過ぎてしまえば安定飛行に入れ、燃料の消費も少なくなる。

語学学習もこれと同じで、墜落(挫折)の危険性の高い期間は一気に過ぎてしまわなければならないのです。そしてこの超基本語彙をクリアしてしまえば、次に覚える語彙は半分の努力で OK。そして 500 語も覚えてしまえば、あとは失速することはありません。

ここで 1 つみなさんにアドバイスしておきます。新しい言語を学ぶ際、大人の人間の脳は必ず拒絶反応をおこします。文字を見ているだけでイライラしてきてしまう等等。

こつは「覚えよう、覚えようとしなさい」こと。これがあると、覚えよう、が覚えられない、という強迫観念に変わり、俺(私)には無理だ、という悪循環のスパイラルに落ち込んでいきます。何百回も聞いていればそのうちに覚えるさ(実際に覚えます)、という気楽な気持ちで、とにかく気楽に、しかし徹底的に数をこなしてください。

さて、モチベーションは高まっていますか。

覚えるべき超基礎語彙は選定されていますね。なければ、こちらをご活用ください。

<http://400tu.blogspot.com/>

初めはつらいですが、これさえやってしまえば後の努力は半分以下です。

第三段階：徹底的に聞いて読んで書いていく

まずは聞くことから始めましょう。理解したテキストの文を、何度も何度も聞いてください。このとき、ベトナム語→日本語と、頭の中で翻訳して理解しないように、がんばってください。

ある程度耳が慣れてきたら、音読にうつります。音読は3段階あります。

音読第1段階は、自分のペースで正確に音読すること。やはりはじめは、つかえるところがあるはず。1回読むごとに1回聞く。そしてそこそこの速さでつまることなく読めるようになったら、第2段階へうつります。

音読第2段階は、「CDを聞きながら同時に音読」です。とにかくCDと同じ速さ、同じイントネーションで読めるようになるまで読み込んでください。この第2段階音読までは、テキストを見ながら行います。

また、この第2段階で「音読筆写」、つまり写経のごとく、ぶつぶつとテキストを読みながら、紙に書いていく練習もしてください。書くことで、その言葉がどんな声調で発音するか、頭にインプットされます。

そして第2段階が終了したら、いよいよ音読最終段階、「シャドーイング」です。これはCDを聞きながら、テキストを見ず耳だけを頼りに、一瞬遅れでCDについて読んでいく音読法です。シャドーイングは同時通訳の練習にも使われる、高度な練習です。

この方法で初級のテキストを1冊あげてしまえば、もう簡単な意思疎通には困らなくなっているはずですし、ベトナム語の基礎も完璧に固まります。

あとは同様の方法で次々といろいろなテキストを征服していきながら、実地で会話をしていくことで、もうあなたはプチ・バイリンガルの仲間入りです。

勉強はやればやるほど楽になります。最初のテキストをあげるのに3ヶ月かかったとしたら、2冊目は1ヵ月半で終わられるはずですよ。1冊目では音読第1段階を終了するまでに50回音読していたとしたら、2冊目のときは2~3回で終了できます。

また、語学はじわじわとうまくなっていくものではなく、蓄積されたものがある一点まで達すると、突然しゃべれるようになります。ある日突然、ベトナム語が口をついてでてくるようになる。その瞬間の気持ちを想像しながら、がんばって音読してください。

さあ、、あとは実践あるのみ。

このレポートが、あなたのベトナム語学習に少しでも役に立てば、うれしく思います。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

石川健太郎